

ハイライト:

- 青島レクリエーションを実施しました(3面)
- 学力向上を図る「勉強会」を充実させています(4面)



宮崎国際大学教育学部ニュースレター

教職課程の教育の質保証と本学の教育実績

副学長・教育学部長 福田 亘博



大学や学部は、文部科学省が定める設置基準を満たしているか、設置審による厳しい審査を受けて認可されます。大学は、その後設置申請した時の基準通りに、教育・研究・地域貢献を適切に実施しているか、国が認可した大学評価機関(第三者)の審査を7年ごとに受審・確認することが法律で義務化されています。本学は、昨年公益財団法人日本高等教育評価機構(JIHEE)の審査を受け、今年3月に無事「日本高等教育機構が定める機関別認証評価基準に適合している」と判定されました(<https://www.mic.ac.jp/disclosure/jiheer>)。これで、本学は平成20年度、27年度、令和4年度とJIHEEによる3度の審査に「適合」と判定されたこととなります。

さて、このような大学の質保証の制度は、教員養成を行っている教職課程にも及び、令和4年度中に自己点検を行い報告書として公表するように法律で義務化されました。今回、本学では国際教養学部の中高英語及び教育学部の幼稚園・小学校の教職課程について、文部科学省のガイドラインに沿って、自己点検評価報告書を作成

し、全国私立大学教職課程協議会の事前チェックを受け、「完了証」を発行して頂き、無事公表にこぎつきました(<https://www.mic.ac.jp/disclosure/index#bge-01>:教育職員免許法施行規則【第22条の8】「教職課程の自己点検・評価」に関する情報)。本学の教職課程の質保証が第三者によって確認されたこととなります。

教育学部の教員採用試験現役合格率は、昨年度76.7%でした(教員就職率は84%/全国国立大学の平均値67%)。全国の教職課程大学と比較すると、全国の小学校課程を有する大学272校中、23位(県内トップで、九州圏内では3位:大学ランキング2023を参照)でした。このように本学は、大学として、また教員養成大学として、教育の質保証に関するすべての基準をクリアしています。さらに教員採用試験現役合格に向けて、学生諸君の頑張りもありますが、大学ランキング入りする等、皆様のご期待に沿える実績を十二分に上げているものと思います。皆様には、本学が掲げる「礼節 勤労」の教育理念のもと、学生諸君が教員や公務員になりたいとの希望が確実に達成できるように、教職員が一丸となって指導・支援してまいりますので、相変わらずのご協力・ご支援をお願い致します。

教員採用試験合格を目指す宮崎国際大学独自の特別対策講座

学生教職支援センター長 有嶋 誠



「学生教職支援センター」は、教員及び保育士等を目指す学生のために設置されています。教育学部と国際教養学部を問わず教職課程を履修する全学生を対象に本学独自の「特別対策講座」を開講して「教員採用試験」に合格するよう徹底的に指導・支援をします。

特別対策講座は、教育現場における実務経験豊かな教職員が毎週月曜日の3限目に実施します。1年生を対象とした「基礎Ⅰ」は年間18回、2年生を対象とした「基礎Ⅱ」は年間21回、3年生を対象とした「応用Ⅰ」は年間30回、4年生を対象とした「応用Ⅱ」は年間21回実施します。また、「夏季特別対策プログラ

ム」や「外部講師による一次試験対策講座・二次試験対策講座」など充実した講座も提供しています。その他にも学生教職支援センターでは教職についての相談に応じたり、教職関係資料を自由に閲覧できるようにしたりし、教職を希望する学生に対して手厚い支援や指導を行っています。

なお、教員になるためには、大学での「規定単位取得」と合わせて「教員採用試験合格」という大きな壁を越えなければなりません。先日(7月9日)実施された小学校と中学校教員採用試験の一次試験に本学4年生35名が挑戦しました。本学での教職課程科目と特別対策講座を4年間熱心に受講した全員の一次試験合格を祈っています。

卒業した先輩からのメッセージ

大切な時間を有意義に

宮崎市立国富小学校 教諭 清水 舞
(令和5年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



私は現在、3年生の学級担任として31名の子どもたちの指導にあたっています。教員として働き始めて2か月が経ち、目の前の子どもたちにどんな指導方法があるのかを日々悩みながらも実践し、振り返り、反省している日々です。

慌ただしい毎日の中で、子どもたちの成長を感じられた瞬間に教員という職業に就くことができた喜びを感じています。

「わかる・できる」授業の進め方、子どもたちとの接し方、学級事務の処理方法など分からないことばかりですが、たくさんの先生方にアドバイスをしていただきながら日々努力しています。

後輩の皆さんに一番伝えたいことは、時間を大切にしたいということです。大学生は、「人生の夏休み」と言われるように自由な時間がたくさんあります。その時間は今の私にとってとても価値あるものだったと痛感しています。その自由に使うことができる大切な時間を自分の将来のために有意義に使ってほしいと思います。

新しい発見をして学びを深める

宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園 保育教諭 湯浅 七海
(令和5年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



私は現在、年少児(3歳児)クラスの担任をしています。これまで行ってきた実習等とは違い、担任としての責任もあり、子どもとの関わり方や保育の進め方など戸惑ったり悩んだりすることが多くあります。しかし、先輩方に相談に乗ってもらったり、アドバイスを頂いたりしながら日々学びを深めています。

今、学生時代を振り返って思うことは、学生のうちから「子どもたちに読んであげたいな」という絵本をたくさん見つけておくと良かったということです。私の園をはじめ他の多くの園でも毎日絵本の読み聞かせを行う時間があると思います。年齢に応じた絵本や子どもの興味を惹き付けることのできる絵本のレポーターを持っていくと現場で役に立つと思います。

不安があっても子ども達と新しい発見をしながら成長していけると考えています。後輩の皆さんもたくさん新しい発見をして学びを深めていってください。応援しています。

3年生有志が中心となり、教育学部運動会を開催しました

教育学部3年 河野 珠己(宮崎学園高等学校出身) 三浦 智祥(宮崎県立宮崎北高等学校出身) 田村 彩華(宮崎県立宮崎西高等学校出身)



5月20日に、教育学部運動会を行いました。1年生から4年生までの約80名が参加し、ともに汗を流しました。新型コロナウイルスが流行し始めてから学生企画の運動会を開催できてい

ませんでした。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したため、換気等の感染症対策をした上で約3年振りに3年生が中心となって開催しました。

競技の種目は、大縄跳び、障害物競走、プレボッチャ、全員リレーの4種目で、赤、青、緑の3つの団に分かれて競いました。それぞれ、団長の、日下さん、藤代さん、前川さんの4年生3名を中心に選手宣誓やエール交換を行い、全体の士気を高めました。最も印象的だった全員リレーでは、団員全員でバトンを渡しながらアンカーの団長に繋ぎました。みんなが本気で走っていて、普段とはまた違った一面を見ることができました。

競技終了後には全員でジャンボリミッキーを踊りまし

た。それまでの競技で仲が深まったこともあり、みんなが恥ずかしがらずに踊っていて、とても賑やかで楽しい様子でした。また、見に来てくださった先生方からの差し入れもあり、大いに盛り上がり、学部内の絆や交流を深めることができました。

今回の運動会を成功させることができたのは、先生方や他学年の先輩・後輩など多くの人の協力のおかげです。教員採用試験が近づく中、私たち3年生もその意気込みに負けないよう、間近に控えた実習に向けて日々の講義に取り組んでいきたいです。そして、4年生が自信を持って試験に臨めることを心から願っています。



運動会の最後に参加者全員で写真撮影をしました

青島レクリエーションを実施しました

宮崎国際大学ではこれまで、新入生宿泊研修**青島リゾート**を実施してきましたが、コロナ感染拡大のため、3年中止となっていました。今年度、**青島レクリエーション**と名称を変え、日帰り研修としました。

この研修では、3年生AAが中心となり、大学生活の過ごし方等のアドバイスや親睦活動を行いました。

AA(アドバイザー・アシスタント)は本学の学生が先輩として相談相手となり、アドバイザー(個別指導教員)とともに新入生を支援する制度です。

新たな「つながり」のはじまり —3年ぶりの青島レクリエーション—

教育学部3年 AA 松尾 直也 (宮崎県立日向高等学校出身)



3年ぶりに開催された青島レクリエーションに私はAAとして参加しました。大学に入学した1年生は不安を感じながらも、新たな環境での「つながり」を求めています。私たちAAは青島レクリエーションで、1年生が大学生活4年間の目的を確認し、新入生同士やAA、先生方との絆を深めることを目指しました。

さまざまな興味を持つ同級生と出会う機会ともなり、新しい友人を得ているようでした。

昼食後はAA主催ドッチボールやカップ積み上げなどのレクリエーションで緊張がほぐれ、みんなに笑顔がでてきました。その後、施設や施設周辺の自然を生かしたスポーツやハイキング、室内ゲームなどのアクティビティの時間がありました。私は、水上アスレチックで1年生の補助を担当しながら、一緒に楽しみました。先輩として参加したつもりでしたが、まるで友達のように遊んでいる自分がありました。自分自身が1年生との絆を深められていることを実感すると共に、自分にはない1年生のフレッシュさを大いに感じました。

AAとして青島レクリエーションの活動内容を企画するのは簡単ではありませんでした。企画・運営に携わったAAや先生方が青島レクリエーションに参加したことがなかったからです。企画通りにうまくいくかという不安はありましたが、コロナ禍前の活気を取り戻す新しいレクリエーションにしようと思い当日が楽しみでした。

青島レクリエーションを通して、1年生は学部を超えて新入生同士やAA、先生方との親睦を深め、また、大学生活について知る中で、将来の自分に向けてどう学んでいくかが想像できたと思います。1年生よ、このレクリエーションで育まれた友情を大事にし、大学生活で一生の思い出を築くための冒険に出発しましょう！

1年生は、午前中の「先輩とともに考える」で、未知の環境である大学についての不安や悩みをAAや先生方に相談をしました。この活動は新入生の不安解消に加え、さ

教育学部教員より

柔らかな心で

教育学部教授 佐々木 由喜子



今年度、教育学部に着任致しました佐々木由喜子と申します。音楽教育を専門とし、保育者養成や保育現場での音楽活動に携わって参りました。宮崎学園短期大学に籍を置きながら、教育学部の基幹教員として音楽関係の授業を担当致します。よろしくお願いいたします。

ところで、皆さんの好きなことは何ですか？得意なことは、どんなことですか？「好き・嫌い」はもとより、「得意や不得意」などの凸凹があるのは一般的ですし、自分のオシやこだわりを持つことは、むしろ大切で、それが個性と言えると私は考えています。

一方で、私達には、教育や保育のなかで、教授すべき内容のみ気にかけて、一定の物差しでもって目の前の子どもたちを計り、周りと比較し、自信を失わせてしまう可能

性があります。「こうでなければならない」という自分の思い込みに囚われていないか、その子の良さが何かしら発現しているか、私の最も気にかけている点です。

今年、「子ども家庭庁」が発足しました。「こどもまんなか社会」を目指し、働き方を含めたあらゆる点で見直しと変革が求められています。それは、自分の経験や考えに囚われていないか、柔らかな心で対象を受け入れているか、ということに尽きると私は考えています。

音楽は、世界共通の言語と言われます。様々な音楽にノリながら、身体を使った感覚的な刺激など、ユニークなアイデアをみんなで探しながら、「音楽を遊ぶように学ぶ」授業にしたいと考えています。楽しく豊かな音楽の経験が、教育や保育の現場へと広がることを願っています。

(担当科目：音楽と遊び、子どもの音楽活動、幼児と表現)

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
電話:0985-85-5931 FAX:0985-84-3396



国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科

EVENT情報

オープンキャンパス

開催日：7月16日(日)、8月12日(土) 10:00-15:00

内容：学部紹介、体験授業、学食体験、交流カフェ、**初開催！保護者様向け講座** など

週末キャンパス見学会&相談会

開催日：6月17日(土)、8月26日(土)、9月30日(土)、10月28日(土)、12月2日(土)、
2024年1月20日(土)、2月17日(土) 10:00-12:00

内容：学部紹介、入試相談、受験対策講座 など

春のミニオープンキャンパス

開催日：2024年3月2日(土) 10:00-13:00

内容：学部紹介、交流カフェ、個別相談 など

個別の見学会・相談会も受け付けております。ご希望の方は事前に入試広報部までご連絡ください。

オープンキャンパス・週末
キャンパス見学会&相談会
についてはこちらで詳細を
ご確認ください。



入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931

MAIL admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを
読み込んで
お友だち追加!



共に支え合うことができる教育学部に

教育学部 3年 AA 丸山 鈴奈 (宮崎学園高等学校出身)



今年度から開始した「勉強会」は、教育学部1～3年生を対象としており、各学年20～30名程度が参加をしています。この「勉強会」では、学生の基礎学力向上のため、理科・数学・英語の基礎的な問題集を使用し、苦手な教科を克服したり、得意な教科は応用問題にチャレンジしたりしています。

勉強会の時間には、3年生のAA(アドバイザー・アシスタント)が問題の解説を行ったり、学生生活での悩み等の相談に乗ったりして、学力向上のサポートをしています。

私自身はじめは、学生同士で教えるのに抵抗がありましたが、どの学生も積極的に関わってくれるため、講師役として自身の学力を見つめなおす機会にもなっています。また、講師役のAAで協力し合い、参加しているそれぞれの学生に合わせて指導方法を工夫するようにしています。

そして、この勉強会において特に大切にしているのは、参加している学生同士の「学び合い」です。共に学力向上を目指す仲間として、お互いを支えられる関係であるために誰もが「教える、教えられる」ができる雰囲気づくりに努めています。

保育者をめざす学生を対象とした

「基礎学力ゼミ」

教育学部准教授 田川 一希



保育者をめざす学生にとって基礎学力を身につけることは大切です。保育実習で日誌や指導案を作成する際は、正確な文法と漢字を用いて論理的に文章を書く力が求められます。保育者として現場に出てからも、幼児の育ちに関する記録や保護者へのお便り、様々な事務文書の作成にあたって国語力が必要です。また、数学・理科・社会に関する基礎的な知識を持っていると、小学校以降の学びを見通した活動の計画、環境構成が可能となるでしょう。

大学4年間を通して、専門的な知識技能に加えて基礎学力を身に付け、現場で活躍できる保育者になってほしいという願いから、保育者をめざす学生を対象とした「基礎学力ゼミ」を実施しています。国語・数学・理科・社会・英語についての課題を提示し、週に1回、皆で集まってテストと解説を行っています。今では、学年を越えて学び合い、積極的に学習を進めている姿が見られるようになりました。今後も定期的なゼミの受講を通して、確かな学力を培ってほしいと思います。

大学4年間を通して、専門的な知識技能に加えて基礎学力を身に付け、現場で活躍できる保育者になってほしいという願いから、保育者をめざす学生を対象とした「基礎学力ゼミ」を実施しています。国語・数学・理科・社会・英語についての課題を提示し、週に1回、皆で集まってテストと解説を行っています。今では、学年を越えて学び合い、積極的に学習を進めている姿が見られるようになりました。今後も定期的なゼミの受講を通して、確かな学力を培ってほしいと思います。